

\*~\*.....\*~\*  
▼△住宅侵入強盗が増加！～手口知り防犯対策を強化しよう△▼  
\*~\*.....\*~\*



今年に入り、関東など各地で「闇バイト」にからんだ強盗事件が続発し、ニュースでも大きく報じられました。

近頃、手口が巧妙かつ凶悪化した侵入犯罪が相次いで発生しています。店舗だけではなく一般住宅も被害に遭っており、金品のみならず、ときには人命が奪われる事態も発生しています。

犯罪の手口が凶悪化の傾向にあることから、防犯意識を高め、住まいの防犯対策を更に強化していくことが求められています。

今回は、自分や家族の命と財産を守るための防犯対策等についてお伝えします。

■侵入強盗などの手口が凶悪化

警察庁によると、空き巣などの「住宅を対象とした侵入窃盗」は2004年以降連続して減少しているものの、2022年は1万5,692件もの発生がありました。

さらに、住人の在宅の有無にかかわらず、複数人で窓などを破壊して住宅に押し入る、宅配業者や点検業者を装うなどの方法で住宅に押し入り、凶器などで住人を脅して金品を強奪する「住宅を対象とした侵入強盗」に関しては、2005年以降、おおむね減少傾向が続いていたものの、2022年には増加に転じました。件数は129件で、これは前年に比べ20.6%も増加しています。

手口の巧妙化・凶悪化が進んでいることから、これまでの防犯対策をより一層強化していくことが求められています。

■侵入犯罪の手口を知っておく

●侵入窃盗は無施錠の窓や玄関からの侵入がトップ

侵入者はどのような場所から、どのような手口で侵入しているのでしょうか。

警察庁が公表している「侵入窃盗の侵入口」(2022年)によると、一戸建て住宅やマンションなどの共同住宅では、「窓」と「表出入口」からの侵入が全体の7割以上を占めています。

とくに、空き巣をはじめとした侵入窃盗の多くは、鍵の掛かっていない所から侵入しています(無締り(むじまり))。

「少しの間だから大丈夫」と玄関などの鍵を掛けないままゴミ出しに行ったり、洗濯物を干したりすることがないように、日頃から少しの外出でも必ず施錠をする習慣を身に付けましょう。

無締りの次に多いのが「ガラス破り」による被害です。家を不在にする際には雨戸などを閉める、窓に補助錠を取り付ける、窓ガラスの全面に防犯フィルムを貼るといった対策も有効です。

4階建て以上の共同住宅になると「合い鍵」による侵入も多くなります。

合い鍵を玄関の周囲や郵便受けなどに隠したつもりでも侵入者は見抜いています。合い鍵を家の外には絶対に置かないようにしましょう。

●具体的な侵入手口

・ガラス破り

網入りガラスは、防火用として開発されたガラスのため、侵入防止には効果はありません。

また、クレセント錠(室内側に取り付けられる締め金具)や補助錠の付近の窓ガラスにだけ部分的にフィルムを貼っても、更に大きな範囲で割ることができるため、防犯対策には不十分です。防犯フィルムを貼るときには窓ガラスの全面に貼りましょう。

・ドア錠こじ破り

ボールなどの工具をドアと壁の隙間に入れ、てこの原理で強引にドア錠を壊して開ける手口です。強引ですが、通常のドアや錠は短時間で破られてしまいます。

・ピッキング

ピックと呼ばれる金属製の特殊工具を鍵穴に入れ、ドア錠を短時間で開ける手口です。ピッキング手口に対応した錠でなければ、1分も掛からず開錠されて屋内に侵入されてしまいます。

・サムターン回し

ドアにドリルを使って穴を開けるなどして、サムターン(ドアの鍵を室内側から施錠・解錠するためにつけられたつまみ)を外から操作して侵入する手口です。

## ■効果的な住まいの防犯対策と防犯行動

警察庁が推奨する侵入犯罪に対する自主防犯行動は、以下のとおりです。

### 【自主防犯行動】

#### <在宅・帰宅時の行動>

- 1.在宅時でも、出入口や無人の部屋の窓に鍵を掛ける習慣をつけること。
- 2.訪問者に対しては、不用意にドアを開ける前に、まずドアスコープやインターホン越しなどで確認すること。
- 3.外出先から帰宅した際は、背後や周囲に人がいないか、よく確認すること。

#### <住宅の防犯対策>

- 4.日頃から建物周囲を整理整頓し、侵入されにくい環境を整えておくこと。
- 5.玄関をツーロックに、窓に補助錠を取り付けるなど、防犯設備を充実させること。建物部品を選ぶときは、防犯性能の高いものを選ぶこと。
- 6.設置した防犯設備機器を有効に役立てること。
- 7.旅行など長期不在にするときは、隣近所へ声を掛け合ったり、郵便物・新聞などの配達を止めるなどの対応も必要。

#### <日常での心構え>

- 8.合鍵の不正作製を防止するため、鍵を家族以外の人には「見せない」「渡さない」、写真や動画で「写さない」。
- 9.自宅に必要以上の現金を置かないこと。電話などで在宅状況、家族の状況、資産状況を聞かれても答えないこと。
- 10.不審を感じた場合には、ためらうことなく 110 番通報すること。

## ●侵入犯罪は個人の不注意を無くして地域力で防止

空き巣や強盗などの侵入者は、目星をつけた地域や家の下見を行うことが多いといわれています。

侵入者は「近所付き合いが良く、連帯感のある住宅街」を嫌うといわれており、下見の際にチェックする項目には、人通りの少なさや、地域住民が挨拶などを交わしているかなどの「地域環境」も含まれています。また、ゴミの指定日や指定時間以外にゴミが出ている地域は、住民の地域への関心が低いと思われるのか、侵入者にとっては安心感を与えるとといった傾向もあります。

日頃から、ゴミの収集日など地域のルールを守り、近所付き合いを大切にすることが、犯罪に強いまちづくりにつながります。

## ■侵入者が侵入を諦める物理的な防犯対策

鍵の掛け忘れといった不注意を減らすなど、ちょっとしたことで侵入犯罪の防止を図ることが可能ですが、それだけでは不十分な場合もあります。

ピッキングやサムターン回し、ドア本体をこじ開けるなどの荒々しい手口に対応するため、「CP 部品（防犯性能の高い建物部品として認定されるもの）」を導入して、侵入口となる窓や玄関口を物理的に強化するほか、防犯カメラやセンサーライトを設置するなど、物理的な防犯対策を施すことも効果的です。

CP 部品には、ドア、錠、サッシ、ガラス、ウィンドフィルム、雨戸、面格子、窓シャッターなどの 17 種類 3,461 品目（2023 年 9 月末現在）が認定されています。

・5 団体防犯建物部品普及促進協議会「CP 部品紹介」リンク

[https://www.bouhan-cp.jp/cp\\_parts.html](https://www.bouhan-cp.jp/cp_parts.html)

## ●センサーライトや防犯カメラなども有効な対策

防犯対策がされている家であることを分かりやすくし、「この家は侵入しにくいな」と思わせることも防犯のための一つの方法です。

センサーライトや防犯カメラを外部から見える位置に設置し、侵入しにくい家であることをアピールします。このとき、防犯カメラはダミーのものではなく、実際に録画機能があるものを選びましょう。さらに、死角が発生しないよう、複数のカメラを取り付けるとなお良いでしょう。

侵入犯罪は、巧妙かつ凶悪な手口が増えています。

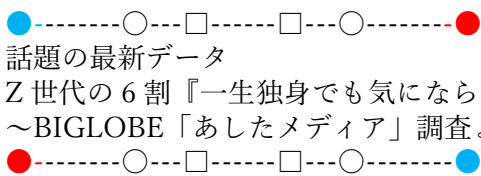
最新の防犯知識を得て対策を立てるとともに、不審な人がいた、何かがおかしいという異変を感じたら、ためらうことなく 110 番をすることが大切です。

以上

### 【お役立ちリンク】

警察庁「住まいの防犯 110 番」

<https://www.npa.go.jp/safetylife/seianki26/top.html>



話題の最新データ  
Z世代の6割『一生独身でも気にならない』  
～BIGLOBE「あしたメディア」調査より～

BIGLOBEは、全国の18歳から69歳の男女1,000人を対象にした意識調査を実施し、このほどのその調査結果を発表しました。

それによると、Z世代の6割が「結果的に一生独身でも気にならない」と回答し、18歳から24歳までのZ世代の4割が「選択的夫婦別姓が制度化されたら結婚したい／夫婦別姓に変更したい」と考えていることなどが明らかになっています。

### ■Z世代「結果的に一生独身でも気にならない」6割強

「結婚したいと思う（または結婚している）か」を質問したところ、18歳から24歳までのZ世代の52.6%が「あてはまる」と回答。25歳～40代は約6割、50～60代は約7割となっており、Z世代が最も低い結果に。

また、「法律婚にはこだわらないがパートナーと暮らしたい／結婚しているが法律婚でなくてもよいと思うか」を聞いたところ、18～24歳までのZ世代の51.1%は「思う」と回答。25～29歳は51.6%と5割を超えています。

一方、「一生独身でも気にならないか」との質問では、18歳から24歳までのZ世代の60.6%が「気にならない」と回答しています。

年代別では、25～29歳が62.0%と最多になり、若年層は一生独身であることを気にしない人が多数派であることが浮き彫りになっています。

また、「選択的夫婦別姓が制度化されたら結婚したい／夫婦別姓に変更したい」と考える人は、18～24歳までのZ世代で39.7%。年代別では、25～29歳が最多で41.6%。30代以降は大幅に下がり、30代で24.0%、40代で26.0%、50代で20.0%、60代で18.0%となっています。

さらに、「結婚相手の姓に変更することに抵抗がない／変更してもよい」と考える人は、18～24歳までのZ世代が62.0%、25～29歳は61.2%となり、若年層は姓に対する柔軟性が高いことがわかりました。

### ■「子どもがほしい／もっとほしい」Z世代で5割を切る

次に、「子どもがほしい／（既にいる場合は）もっとほしいか」を質問したところ、18～24歳までのZ世代の47.4%が「ほしい」と回答。最多は、25～29歳の52.4%。

また、「養子縁組に抵抗がない／しているか」を質問すると、18～24歳のZ世代の49.1%が「あてはまる」と回答して最多に。続いて25～29歳が41.2%となっていますが、Z世代よりは大きく数値を下げ、この傾向は、年代が上がるにつれて顕著となっています。

### ■Z世代の8割弱「仕事よりも私生活を重視したい」、30代は9割弱に

次に仕事観について、「仕事は私生活の充実のための手段だと思うか」を聞くと、18～24歳までのZ世代の72.9%が「そう思う」と回答。年代別では、30代が「そう思う」回答した人の割合が83.0%で最多に。各年代ともに総じて「仕事は私生活の充実のための手段」だと考える人が多数派の結果となっています。

また、「会社選びにリモートワーク可能であることは重要か」を質問すると、18～24歳までのZ世代の62.3%が「重要」と回答。年代別では、25～29歳が58.8%、30代が53%、40代が44%、50代が39%、60代が33%と、年齢が若いほど、リモートワークの可否が会社選びに影響することがわかりました。

以上